

小型の発汗計測器開発

信大発ベンチャー「スキノス」など



信州大発のベンチャー企業で生体計測機器開発のスキノス(上田市)は、信大の医学部(松本市)と工学部(長野市)、県テクノ財団(同)と共同で、身につけられる小型の「発汗計測器」を開発した。運動時に汗が出始めるタイミングや汗の量を把握でき、運動効果の確認や水分補給の適切なタイミングが分かるという、フィットネスクラブなどに売り込む。熱中症予防や精神性発汗の計測といった用途も考えられ、多様な業種に提案していく。

運動の効果確認

新たに開発した小型の発汗計測器(手のひらの上)。従来品(右)より大幅に小さくした

計測する部分は直径1・8センチ、厚さ1センチで、二つの湿度センサーと、空気を圧縮して出すコンプレッサーを内蔵。皮膚に空気が当たる前後の湿度を測り、湿度の差

から発汗量を割り出す仕組みだ。

フィットネスクラブの利用者がリストバンドで固定するなどの方法を想定。施設側がデータを分析し、効果的な運動プログラムを提案することもできる。6月までをめどに発売する計画で価格は未定。

同社は1998年設立で、

2017年に現体制で事業を開始。19年3月期の売上高は約4千万円の見通し。発汗計測器の同社従来品は、小型の機種でも縦15センチ、横13センチで身につけるのは難しく、布団の寝心地や衣類の着心地の評価、入浴剤の効果の分析など用途が限られていた。

百瀬英哉社長は「まず少数

のフィットネスクラブで試してもらい、全国に広めた」と説明。真夏に作業する発汗量を測り、熱中症予防につなげるといった用途や、張ったときに手のひらなど出る精神性発汗を計測して精神科のカウンセリングに立てるといった使い方も想定する。21年3月期の売上高2億円を目指す。